

学校法人 三幸学園
札幌こども専門学校

学校自己評価報告書
(平成27年度)

平成27年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川好典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 鹿又勝次

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

本校の教育理念は「技能と心の調和」であり、目指す人材育成像は「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」である。

また、本校生徒のかかわる分野(保育・教育)では「皆から信頼・感謝され、こどもの未来を育む人材」を育成目標とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「生徒の主体性を育成する」という重点目標を達成するために下記のことに取り組む。

- ・ アクティブラーニング(能動的学習)の積極的な実践
- ・ WEB を活用した教務掲示板を設置、活用

「退学率を低減する」という重点目標を達成するために下記のことに取り組む

- ・ 皆精勤率の目標を立て、それを毎月会議で振り返りを実施し、成功事例を共有する
- ・ 教科担当に自身の授業の皆勤率を設定してもらい、魅力ある授業を意識してもらい、生徒が学校に来たくなる仕組みの一つとする。
- ・ 夢のスケッチブックを導入し、生徒が自ら目標を具体的に設定し、実行計画を立て日誌で振り返りを行う仕組みを作る。この夢のスケッチブックを活用し、常に自分の目標を意識させ、目標を見失わせないようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

教職員に対しては教育理念・人材育成像などの共有はされ、徐々に浸透はしてきているが、継続的な意識付けが必要である。また、生徒・保護者にも昨年度に比べると行事やホームルームで浸透はしているが、もっと発信していく必要がある。

② 今後の改善方策

教職員には朝礼や会議を活用し、さらに職員室の目標掲示・配布資料に記載をして浸透を図る。生徒・保護者には昨年度に引き続き担任より電話でのごあいさつを兼ね学校生活での様子を伝えながら教育理念や目標を理解、浸透を図りたい。

③ 特記事項

昨年度同様、生徒・保護者には浸透を図るために入学前オリエンテーション・保護者説明会を実施し、入学前に理解を深めてもらうよう取り組みをしている。また、入学後の行事案内を以て理解、浸透を試みる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・在学時の浸透は掲示物で見たことはあるものもう少し
- ・自立を促す助言も必要
- ・専門学校入学以前に如何に主体性を持った学校選びに取り組んでいただくかが難しい所ではある

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

業務の効率は上がったが、依然として PC 操作が苦手な教職員にとっては時間がかかり、手間が増えてしまっている部分はある。メールによる一方通行的な発信は使い方間違えてしまうと人と人との繋がりが希薄になってしまう恐れがある。

② 今後の改善方策

今後、利便性は理解できているものの必要に応じ PC のスキルアップに伴う講習、勉強会を実施していく。また、人を育成する観点からコミュニケーションの重要性を理解させ「フェイス トウ フェイス」を意識できるよう日頃の朝礼などで発信、意識を促す。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・業務上PCはどうしても必要に迫られるのは致し方ないが会話も重視して取り組むべき

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

① 課題

関連業界との連携強化に課題があると思われる。関係業界との連携によるカリキュラムの見直しがもう少し必要である。現場実習先から評価を頂いている生徒・学校についての結果をもっと活用していく必要がある。

② 今後の改善方策

現場実習先のアンケート結果を検証し、生徒の不足している能力を補い、学校として事前事後の指導を強化する。また、卒業生を多く輩出していることを活用し、卒業生に関連業界とのパイプ役になってもらい、連携を強化してい

く。

③ 特記事項

同窓会 10 周年記念事業を実施、更なる卒業生との連携の場をつくる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生との関わりをより密接にしていく事は良い事
- ・実習の時期をもう少し早める事で知る気かが増え得る物が多い
- ・実習は学びの場として失敗を恐れず前向きな気持ちを持っていれば現場にとっても良い影響

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

退学率の低減に関しては最重要課題として、取り組む必要がある。特に新人担任クラスや1年時に退学者が多く出てしまう傾向がある。

② 今後の改善方策

新人担任には担任指導者を設置し、きめ細かな生徒指導ができる体制を継続的に整える。ホームルームの前後に時間を取り、伝え方・指導の仕方などをアドバイスし、より良いクラス運営ができるようにする。また、当然ながら生徒達へのモチベーションを上げる工夫を担任毎で情報交換を行い、成功事例を共有していく。

③ 特記事項

就職率の関しては売り手市場となっているが学校として謙虚な姿勢を就職先と常にとっていくことが大事。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・単位の取得含めて入学前に厳しい面をしっかり伝えていく義務がある
- ・人それぞれモチベーションは異なるが教員が生徒一人ひとりと向き合いながら地道に行っていくしかない

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2

学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

学校生活の相談に関してはスクールカウンセラーを設置し、対応しているが接する時間が多い担任がいろいろな悩みを抱えた生徒に対して適切なアドバイスが出来ているかが不明な部分がある。

② 今後の改善方策

スクールカウンセラーから「近年の若者の特徴や傾向」「生徒対応で気を付けるべき言葉・行動」などアドバイスを頂く。担任も一人で抱えないように会議にて生徒状況報告を実施し、相談できる環境づくりをする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・担任による面談が形式的にならないよう留意する必要がある
- ・実習巡回および会議などで不在時おける相談体制を検討してみたい

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

本校本位の実習先が充分確保できているとは言い切れず時期、場所を優先させている状況も若干ある。

② 今後の改善方策

実習先との相互理解を図り生徒への利益をできるだけ優先させていく。
懇親会、講話会の実施を検討していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・改善策に期待したい

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施している

② 今後の改善方策

本校の教育内容を充分理解いただくために保護者説明会の開催を高校生と分けて実施していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・オープンキャンパスにおける在校生によるスクールアドバイザーの存在は高校生にとって大きく意義のある事
- ・高校生からの憧れであり成長の機会となっている

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、

有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。
また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。
また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適正に運用されていることが伺われ、継続を願う

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

自己評価の実施はしているが外部評価を交えた評価は行っていない。

② 今後の改善方策

自己評価を実施した上で学校関係者評価委員会を開催し、外部評価も取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

③ 特記事項

コンプライアンスに関わる学習会の実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1

① 課題

せっかくの機会を逃してしまう生徒が多くなってきている。

② 今後の改善方策

ボランティアをカリキュラムの一つとして運用することを構築していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・あそびの広場などを通してぜひ地域貢献を期待したい

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 2 1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 2 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 2 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 3 2 1

① 課題

留学生の受け入れ実績がないため、今後の受け入れ体制が不十分な部分がある。

② 今後の改善方策

姉妹校に相談し、対応方法を確認する。

③ 特記事項

学校で留学生を受け入れたとしても現場実習先や就職先の受け入れ状況が整っていないため、積極的に広報活動したとしても留学生に不安を与えてしまう。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価を取り組むことにより、現状の認識・今後の課題が再確認できた。

「生徒の主体性を育成する」という重点目標を掲げているが、更なる仕組み作りが必要である。まずは教職員の教育目標に対する意識向上を図り、近年、導入されたアクティブラーニング・掲示板を活用し、積極的に

取り組んでいく必要がある。専門学校は社会人育成の場ということを念頭に置き、学生から社会人へ成長させる学校でありたいと思う。

また、「退学の低減」の取り組みについては、27年度の退学率が前年度より改善が見込めなかったが今後も継続的な取り組みが必要である。教員同士の情報共有をより一層強化、スクールカウンセラーとの連携、担任指導者によるフォローを中心に成果を出していきたいと考える。単位を落とし、退学に至るケースもあるため、欠席が多い生徒の早期のフォローが必要と考える。

「選ばれる学校作り」を目指し「教務・就職・広報」において、生徒・社会が満足するサービスを提供し、卒業生とともに教員が「誇れる学校作り」を目指していく為にも、評価委員の皆様から頂いた貴重なご意見を受け止め、さらなる向上に努めていきたい。

以上